

子どもたちに平和な未来を2025 その時、私は子どもだった

～被爆・戦後80年の想い～



80年前のその時、子どもたちも原爆により被爆しました。

そして、その時の子どもたちは80歳を超え、今なお、核なき平和な世界の実現ために被爆の体験を伝え続けています。

小学校で被爆や平和についてお話をしている名コンビが、わたしたちにその想いを伝えます。

また、不二女子高等学校演劇部みなさんが、「サダコのメモ」の朗読劇を上演します。

被爆・戦後80年を迎えた今、改めて被爆者の声に耳を傾けてみませんか？

お子さんの自由研究のテーマにもおすすめです。



その時 6歳

小谷孝子さん

1939年広島県生まれ。6歳の時に爆心地から2.5kmのところで被爆。2010年から相棒のあっちゃんと一緒に被爆体験を語り始める。海外でも被爆証言をおこない、核兵器廃絶を訴え続けている。86歳。



その時 2歳

中村紘さん

1942年広島県生まれ。2歳9か月の時に爆心地から2.2kmのところで被爆。核兵器廃絶への願いを込めて八千代市内の小学校を中心に講演活動をおこなっている。83歳

- ・ 日 時：2025年7月21日（月・祝）13：30～15：30 受付開始13：00
- ・ 場 所：コーププラザ千葉
千葉市中央区新田町36-15 千葉テックビル4階
- ・ 対 象：生協組合員とそのご家族
（小学高学年以上が対象ですが、ご兄弟や大人のみの参加も可能）
- ・ 持ち物：筆記用具 飲み物（お菓子を配布予定。アレルギー対応なし）
- ・ 参加費：無料
- ・ お申込み：2次元バーコードよりお申込みください。

申し込み締め切り 7月10日（木）

応募者多数の場合は抽選。全員に7月15日（火）にメールでご連絡いたします。

主なプログラム

★朗読劇 「サダコのメモ」 不二女子高校演劇部

同校演劇部は被爆者による被爆証言を聴いたことがきっかけで、原爆に関する朗読劇を始める。「サダコのメモ」は原爆の少女の像のモデルの「サダコ」について、様々な資料を参考に本企画のために作成されたオリジナル脚本。

★「平和と平等といのち」 被爆者 中村紘さん

小学生に命や平和の大切さをわかりやすく伝えている中村さん。なぜ核兵器がダメなのか？ 問いかけながらわかりやすく教えてください。

★被爆証言 被爆者 小谷孝子さん

原爆で亡くなった弟に語りかけるような、優しい語り口で自分の被爆体験を語ります。

★グループごとの意見交換

ワークシートをもとに、グループで感じたことや考えたことを話します。



お申込みはこちらから

